

「とびひ」って何？ 症状と治療法の注意点について

「とびひ」は、赤ちゃんや子供に多い、代表的な皮膚の病気の一つです。とびひは細菌に感染することにより発症します。原因となる細菌には2種類あります。子どもの場合、ほとんどは「黄色ブドウ球菌」が原因となっています。

◇黄色ブドウ球菌◇

黄色ブドウ球菌は、鼻の穴、喉、皮膚などにいる常在菌で、誰でも持っている菌の一つです。健康な皮膚に黄色ブドウ球菌がついても問題はありませんが、すり傷、虫刺され、あせもなど、皮膚にできた傷に細菌が感染し、かき壊した傷口から菌が感染します。黄色ブドウ球菌が原因のとびひは、水疱性膿痂疹（すいほうせいのかしん）と呼ばれ、主に夏場に発生します。0～6歳の乳幼児に多い症状です。

◇溶連菌◇

とびひの原因となるのは、溶連菌の一種であるA群β溶血性連鎖球菌です。溶連菌も常在菌であり、人の鼻の中や喉にいます。溶連菌が原因のとびひを痂皮性膿痂疹（かひせいのかしん）といい、季節は関係なく一年中発症します。この場合も、傷口などから皮膚に溶連菌が入り込むと発症します。

とびひの症状は？

- かゆみが強く、掻いているうちに汁のついた手で他を触ると広がっていく
- 膿みをもった水泡ができる。大きさはさまざまで、顔から体中どこにでもできる
- 水泡の中の液は透明～淡黄色ににごっている

強いかゆみと全身に広がるスピードが速いことが特徴です。特に夏にかかりやすいため、注意が必要です。

とびひは、早めの受診と治療が大切です。

とびひの治療は、細菌の増殖を抑えたり死滅させるために、抗生物質入りの飲み薬と塗り薬で皮膚と体の内側の両方から治療を行います。とびひの症状が見られたら、早めに小児科または皮膚科を受診しましょう。

自宅でのケアについて

- 肌を清潔にし、爪は短く切りましょう。
- 子どもの鼻ほじりに注意しましょう。
鼻には黄色ブドウ球菌がたくさんあるため、手についた細菌に一層広がります。また鼻の中にも水泡ができるため要注意。

とびひは虫刺されなどの、傷をかき壊すことがきっかけで起こります。子どもは皮膚のバリア機能が未熟なため、肌トラブルを起こさないように日頃から肌を清潔にしましょう。